

平成29年度「学校における交流及び共同学習を通じた障害者理解(心のバリアフリー)の推進事業」成果報告書

団体名	信州大学教育学部附属特別支援学校
-----	------------------

I 概要

1 事業の概要

(文化・芸術)

特別支援学校と中学校をモデル校とし、特別支援学校中学部の生徒が、中学生と共に和太鼓演奏等の音楽活動を行うことによって共に表現する楽しさや共につくる喜びを味わうことと、中学生が特別支援学校生徒と共に活動することによって障害者と障害に対する理解を深め、人間の多様性の尊重や豊かな社会性の育成を図ることを目的とし、事業を実施した。

具体的には、特別支援学校中学部生徒が生活単元学習や音楽の授業で取り組む和太鼓演奏の活動を中学校との交流及び共同学習に位置付け、年間を通じて計画的に活動を展開した。また、中学校においては、3年C組を交流学級に位置付け、中学校の学習発表会でも、特別支援学校中学部との合同での発表を行った。併せて、特別支援学校中学部、中学校3年C組のほか、市内の和太鼓サークルや障害のある方々により構成されている和太鼓サークルによる和太鼓コンサートを開催し、和太鼓を通しての地域の交流を深めた。

2 事業の成果

(文化・芸術)

事業の成果としては、以下の3点が挙げられる。

- ・特別支援学校中学部生徒が意欲的に取り組んでいる和太鼓演奏を交流及び共同学習の中核に位置付けたことにより、中学部生徒が交流相手の中学校生徒に自信をもって演奏を発表する場面や共に演奏を楽しむ場面を設定でき、お互いを認め合える交流を展開することができた。
- ・中学校の学習発表会では、特別支援学校の和太鼓演奏に合わせて3年C組の生徒が事前学習の中でダンスの振り付けを考える場面を設定したことにより、中学生の主体性やアイデアが生きる活動を展開することができた。和太鼓を演奏した中学部生徒も、中学生が自分たちの演奏に合わせて踊っているのを見ながら演奏することにより、より楽しんで意欲的に演奏することができた。
- ・和太鼓コンサートでは、和太鼓演奏を行ったり、演奏の様子を見たり、和太鼓サークルの方に演奏の講習をしていただいたりすることにより、障害のあるなしに関わらず、お互いの活動のよさを感じながら、楽しみながら場を共有することができた。

3 事業の課題とその解決のために必要な取組

(文化・芸術)

- ・附属長野中学校の学習発表会では、附属特別支援学校の和太鼓演奏の発表の他、和太鼓演奏に合わせたダンスの発表も行ったが、交流の内容を中学校全体に広げていくには、さらなる工夫が必要である。
- ・次年度の附属長野中学校の代表学級は、次年度の2年生(2年間の交流の初年度にあたる)であり、新たな関係づくりが大切となる。